

風のように

甘木教会

牧師：白川道生

委嘱者：竹田孝一



彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて必ず救い出す」と主は言われた。 エレミヤ 1:8

それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。

I コリント 13 : 13

皆はイエスをほめ、その口から出る恵み深い言葉に驚いて言った。 ルカによる福音書 5 : 22

【説教要旨】

主の言葉がわたしに臨んだ。「エレミヤよ、何が見えるか。」わたしは答えた。「アーモンド（シャーケード）の枝が見えます。」主はわたしに言われた。「あなたの見るとおりだ。わたしは、わたしの言葉を成し遂げようと／見張っている（ショーケード）。」

今日の日課のエレミヤ書の次に出てくる言葉です。

まだ、雪が残っているその時期にいち早く咲いて春がすでに来ていることを人々に告げる花が、アーモンド（シャーケード）です。

「シャーケードは、古代のヘブライ人にとって目覚めた心（ショーケード）、すなわち将来に向かって広く開かれた鋭敏な思考と機敏な判断力を象徴するものであった。エルサレムの北の寒村アナトテに生まれた預言者エレミヤは、冷たい風がときどき顔の上をかすめる冬のある日、ユダの荒野を目の前に見下ろす丘に咲くアーモンドの花を見て、

人間がまだ眠っている時にも神は目を覚ましていることを、人の心が氷のように冷えている時にもイスラエルの神の心は太陽のように決して暖かさを失わないのだということを知った。自分も眠ってはいけけない。人々が自分のことだけしか考えようとしないこの時に自分まで眠ってしまっはいけけない。遠くでユダ王国を滅ぼそうとする強大な外国の軍隊の足音がする。エレミヤよ、この冷たい冬のような時代にせめてお前だけは目を覚ましていて、人々が滅びの道を歩まないように導いていかねばならない。そういう言葉を聞いた。青年エレミヤは神の召命を受けた。ひとりの新しい預言者が生まれた。」（池田裕著「旧約聖書の世界」）という名文があります。

そして次のようにさらに言葉を進めています。

「自分たちが生きた時代を深く見抜き、勇気を持って人々に社会の正義を語り、迫りつつある国家存亡の危機を告げ知らせたヘブライの預言者たちの鋭い澄んだ目を語るのに、朝日に美しく透き通るように光るアーモンドの花ほどふさわしいものはない。その花のように目覚めた預言者の目のおかげで、ヘブライ民族は何度、国家破滅の危機かを未然に避けることができたか」と預言者の働きを言っています。

これが預言者です。今日の聖書の箇所はエレミヤの召命の記事です。「10見よ、今日、あなたに諸国民、諸王国に対する権威をゆだねる。抜き、壊し、滅ぼし、破壊し、あるいは建て、植えるために。」とは、人が生活し、担う問題をも自分のものとすることです。人々が生きた時代を深く見抜き、勇気を持って、人々にいく道を示す。時には全く耳を傾けられないときもあるでしょう。しかし、決して虚無に陥らず、将来に対して希望を失わず神の言葉を授かり、人々に神の言葉を伝えてこそ、私たちの信仰なのです。「預言者は、いつの時代にも必ずいる『誠実に生きよ

うとするがゆえにかえって深く悩んでしまう』無口な人々を励すましつづけたのである」（池田裕著「旧約聖書の世界」）

このパウロが、「それゆえ、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛である。」と言い切る感性は、預言者的感性です。現実の生活の中で実際、悩み、弱められ、苦勞していることを自分の苦勞としてともに苦しみ、社会的に全く弱く無力なみなし子、寡婦、寄留者や貧しい者のためにわが身の危険を冒してでもあえて、神の言葉を伝えたのが預言者であり、主の弟子ある使徒です。また、私たちでもあります。今、世界は力によって世の動きをねじ伏せようとしています。そんなとき、信仰と、希望と、愛、この三つは、いつまでも残る。その中で最も大いなるものは、愛であると生き続ける教会は難しい歩みをせざるを得ないのです。教会はいつの時代にも必ずいる誠実に生きようとするがゆえにかえって深く悩み、弱い人と共に生きるゆえに悩んでいると思います。私たち日本においても、存亡の危機がある現実が私たちの内にあり、加速度的に変化する社会にあって未来が予測できない行き詰まりゆえに私たちの前に多くの負うべき課題があっても何も出来ないとすくんでしまう私たちがいます。しかし、将来に対して希望を失わず神の言葉を授かり、人々に神の言葉を伝え、励ますのです。エレミヤは「主はわたしに言われた。『若者にすぎないと言ってはならない。わたしがあなたを、だれのところへ遣わそうとも、行ってわたしが命じることをすべて語れ。彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて必ず救い出す』と主は言われた。」主のみ言葉を聞きます。イエス・キリストの、神の恵み深い言葉が私たちに語られています。「彼らを恐れるな。わたしがあなたと共にいて必ず救い出す」2025年度の教会総会を前にしてたとえそうであって希望をもって宣教に励みましょう。

牧師室の小窓からのぞいてみると



ジミー・カーター元アメリカ大統領は、自伝「信じる
こと働くことジミー・カーター自伝(新教出版)」で、イラン・アメリ
カ大使館占領事件で、大国としてアメリカが、圧倒的武力をもって
いるゆえにこれをどれだけ抑制するかがアメリカ大統領の使命で
あるという。力を抑制する理性を持つ事こそが世界の指導者では
ないかと私も思う。

しかし、トランプ大統領は、大国アメリカの力を最大限に使い自
分の政策を進めていくことを是としている。それが、カナダ首相に
放った「アメリカの一州になればよい」という言葉で示される。世界
はロシア大統領・プーチン氏、中国・国家主席・習近平氏にしても
力による自分の理念を実行している。この世界はあの大恐竜が隕
石によって地球の気候変動に滅ぼされたように、このままでは、戦
争、地球温暖化によって滅ぼされるのだろう。

「目を覚ましていないさい」というイエスさまのみ言葉をもってた
とえそうであっても、希望をもってイエスの歩まれた道を歩みたい。

園長・瞑想？迷走記



私は二つの顔を持っている。一園では理事長、もう一
つの園では園長。理事長はどう園を経営していくかということであ
る。園長は、どう園を運営していくかということである。

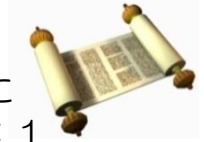
経営すること、運営することも、その中心は子どもがどう元気で、
明るく過ごすかという事にある。子どもが真ん中にあることである。

今、幼稚園は、社会の大変化の中で暴風の中で吹き飛ばされ
るという現実にある。でもこの中でどう園を守っていくかというこ
とでなく、ますます、幼児教育、保育とはなんであるかを問われていく
喜びがある。これからの理事長、園長にしても、たとえ現実がどう
であっても、「幼児教育、保育とは何か」ということに喜びを失わず
にいるということだと思ふ。

日毎の糧

主よ、御もとに身を寄せます。

とこしえに恥に落とすことなく、恵みの御業によって助け、逃れさせてください。 詩篇71：1



「ルターの言葉から」

愛する天の父よ、お話してください。私は喜んで生徒となり、子供となって、沈黙します。もし私が自分自身の才知や知恵や理性を用いて教会を治めようとしたならきっと車はとっくに泥に埋まり、船はばらばらになったことでしょう。ですから愛する神よ、どうかあなたご自身がこれを治め、導いてください。私は喜んで自分の眼を理性もろともえぐり取り、み言葉によってのみお治めになるあなたにおまかせします。アーメン

(ルターの祈り—ルター選集・I 石居正己編訳 聖文舎)

恵みの御業によって

ルターが「愛する神よ、どうかあなたご自身がこれを治め、導いてください。」というように、私たちの歩みをいつも自分が拓こうとすることには、真実がないということです。自分で拓こうとするから闇は深くなります。

私たちの信仰は、悩み深く、嵐が自分に襲う時も、私たちは自分のところに帰り、留まりません。

私たちは「主よ、御もとに身を寄せます。」と祈るたびに神のみもとに身を寄せて、「愛する神よ、どうかあなたご自身がこれを治め、導いてください。」という祈りに身をよせます。これが信仰者です。

主のみ心から離れている目、耳、口を塞ぎたくなるような今の現実があります。しかし、私たちはこの現実を打ち破る主の御業が助けてくださる希望をもって生きます。

祈り：主よ、あなたのみ言葉を日々いただき、私たちの生活をみ言葉によって整えさせてください。アーメン。

甘木通信 讚美歌の話2

近所は古い町だけに古いお寺がある。隣に「娑婆河山 引接院 浄土寺」がある。この寺は浄土宗の寺である。隣接する塀は、漆喰壁の美しい壁。大銀杏は、夏の青葉、秋の黄葉は、絶景である。朝早く掃除をしていると本堂の雨戸を開ける音が聞こえ、ぴつんと張り詰めた空間を破る音が天に貫き朝を告げる。



私に「救いとは、」ということを教えてくださった江口武憲牧師が、茗荷谷の引退後の家で、一冊の本を大切に開き見せて下さったのが、浄土宗の開祖「法然上人絵伝」であった。

「これは僕の宝だよ」と言われていたことを思い出す。その中で遊女と上人の出会いの場面にいたく感動され、話して下さったことを思い出す。後に私は岩波文庫の本を古本屋で買い求めた。今回、もう一度読み直してみた。第卅四に出てくる物語ではなかったかと思う。遊女が罪深く、重い身が、救われるのでしょうかと上人に問います。「上人あわれみての給はく、

『・・ただそのままにて、もはら念仏すべし。弥陀如来はさよくなる罪人のためにこそ、弘誓をもたてたまへる事にて侍れ。ただふかく本願をたのみて、あへて卑下することなかれ。本願をたのみて、念仏せば、往生うたがいあるまじき』」

金子晴勇氏は「東西の靈性思想」のなかで、法然の靈性思想を「法然の開眼とは、まさに阿弥陀仏の御名を熱心に唱えるものは誰でも間違いなく、阿弥陀の慈悲に救いとられ、極楽浄土に往生するという信仰への目覚めにほかならなかった。これが彼の靈性思想の出発点となった。」と言っている。

(甘木日記)土) 午後から甘木。海外からの詐欺まがいの電話。気分が落ち込む。教会の庭掃除をし、主日の準備。泊まり。2月の週報原稿作り。日) 礼拝後、総会準備の役員会。気づくと18時。申し訳ない。月) ブルーマンデー。幼稚園に行きたくないと思いつつ、H幼稚園の理事会準備、自園の仕事をしていると20時を越す。火) H幼稚園の理事会準備でzoom会議。園の事務仕事をしていると7時。水) 職員会後、甘木の花壇を手入れにしようとするが山は日が落ちるのが早く行けず。木) 今日は甘木幼稚園のために記念品の目途が立った。感謝。金) 寒い朝となった。

おまけ・牧師のぐち (続日記) 牧師だって神さまの前でぐちります。ぐちらない聖人(牧師)もいますが。

土) 電話があり、かけなおす。海外から電話。すぐに切る。消費者センターに相談し、ドコモに聞くと32円かかっていますと。そこで海外から電話を受けないように設定。いやな時代である。いつものように一か月分の週報の原稿を作る。日) 天気もよく、気持ちの良い一日となる。Zoomにミッションスクールに入った娘さんが中学時代から高校生時代まで一緒に前教会の夕礼拝に出席くださっていたaさんが出席下さる。礼拝後、メールをくださる。ありがたい。役員会が総会準備のために長時間になり申し訳なかった。疲れた中を足を痛めている私を気遣って車で送ってくださる。月) ブルーマンデーで幼稚園に行きたくない。しかし、20時までかかり、園だよりなど英語、タガログ語に直していた



火) 今日から7時半まで幼稚園に行こうと出かける。バタバタしている。この絶望としか感じられな(花壇完成までまだまだ)

い世相の暗さに精神的にも、肉体的に疲れる。主よ、御もとに身を寄せます。とこしえに恥に落とすことなく、恵みの御業によって助け、逃れさせてくださいと祈り、叫びたくなる。75株のパンジーを購入。水) 走り過ぎていてのせいか疲れが、自分を被ているが温かい弁当を園児に食べさせたくてレンジで温めること一時間。これからはスープ、味噌汁をつけたいと思ってしまう。職員会議後、甘木に花壇の手入れに行こうとするが山は日が落ちるのが早いことに気付く行くのに遅すぎたので街をぶらぶら。夜、「法然上人絵伝」を読みなす。またゆっくりと読みなおしたい。感動、感動。木) 正直、疲

れを覚える。そんなとき甘木幼稚園のために小石原焼の記念品を製作出来たという電話をいただきしく、完成を楽しみにしている。甘木の幼稚園が卒園式、終了式に向けて準備している祈りの返信である。少しずつ「ローズゲン」のドイツ語に慣れてきた。ドイツ語もおもしろい。金) 寒い朝となった。朝からカードの住所変更に取り組むがなかなかたどり着けない。困ったものである。霜も降りて、子どもたちは「雪、雪」と愉しそうである。



(説教に使ったアーモンドの花) 説教にアーモンドの花を使う。天に帰られたkさんが「先生がアーモンドの花について話されていたので、幼稚園の庭に」と大森幼稚園に花の苗を届けて下さった。牧師になる時、エレミヤ書の同じ箇所です。親子が説教をしたことを思い出す。